

## 昆虫のからだと成長

### 「サナギの模型から学んだこと」(3年)

教室に掲示した「生きた教材」の「サナギホルダー」は、子どもたちにも教員にも好評でした。1年生の担任からも「作り方を教えてほしい」と依頼があり、簡単なマニュアルを作って差し上げました。

3年生の子どもたちからも、「自分でも作ってみたい」という声が多く、授業でとりあげてみることにしました。実際のサナギを人数分用意するのは、いざ、ヨーイドンと言っても容易な用意ではありません。そこで、模型(ペーパークラフト)のサナギで、「作る練習」をさせることにしたのです。

模型といっても、本物のサナギを横から写真で撮って、それを展開図にしただけの簡単なものです。しかし、その「簡単さ」に学びが隠されていました。



最初子どもたちは、はさみで切り取って、半分に折って厚紙に貼るだけでした。しかし、こんなつぶやきが聞こえてきました。

「あれ?どっちが背中かなあ?」

「これ、とまりかた(貼り方)が逆じゃないかな?」

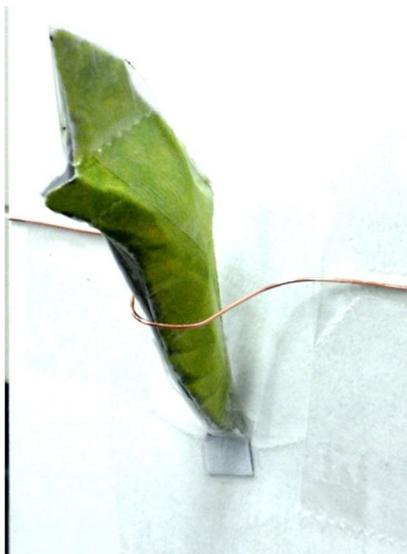
私は「これだ!」と思いました。サナギにも「向き」がある、ということに模型作りを通して気づいた一瞬なのです。ヒントはもちろん本物のサナギにあります。よく観察して向きや角度を確かめる子、中にティッシュペーパーを詰めて、立体感を出そうとする子、模型と本物を並べて比べる子・・・単なるペーパークラフトに、教師自身もいろいろな価値や学びを発見できました。

#### 子どもの感想から

「サナギホルダーづくりの練習は面白かった。最初、サナギの向きをまちがえて、おなかを手前に向けてしまった。でも本物のサナギを見て、なおしたら、かっこよくなった。」

「もけいでも本物そっくりにできてうれしかったです。昼休みに自しゅきょうどう(自主協同=学校の碑文)のナツミカンに、友だつとサナギをさがしに行く約束をしました。」

「リアルにできたので、家のれいぞうこにはって、お母さんをおどろかすのにつかえる。」



(左)  
サナギ模型と本物のサナギを比べてみる。

(右)  
中にティッシュペーパーを詰めた、超立体感のあるサナギの模型。

(2ページ目)  
サナギホルダー型紙。  
A4サイズの画用紙に印刷してごらん。

